



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2024～2025年度 RI会長 ステファニーA.アーチック
RIテーマ ロータリーのマジック

クラブテーマ「ロータリーの理解を深め、地域社会にロータリーのマジックを広めよう」

会長 仲原実圭 幹事 原 兄多

第1592回 例会

2025. 1.31(金)晴

司会：高村勝則君

ロータリーソング「四つのテスト」 指揮：杉山寿美子君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352
<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 仲原実圭君

先週国際奉仕‘水と衛生’事業でカンボジアに行ってきました。今回は当クラブより3名、三島、沼津北RCより各1名が参加してください、計15名での訪問となりました。カンボジア国際奉仕も今年で5か所目、シュムリアップ州で3か所、プンペン近郊で2か所目となります。今回はメコン川流域でベトナムとの国境に近いところで首都プンペンからは車で2時間半ぐらいのカンダール州のソムロン アンディエット小学校に井戸を掘削し、手洗い場を作り寄付をするという事業を行いました。当該地はメコン川に近く水質の悪い地域でヒ素の含有量も多く、水による健康被害がとても多いところです。現地の関係者やNGOの内田さん、田井領事、国際奉仕委員長と打合せをし、通常の井戸の掘削深度をより深く80mの水脈層迄掘り下げることとしました。採取した水を水質検査にかけたところ基準値より高い含有量のヒ素が検出され、また、大腸菌や塩化化合物も検出されたので対応策を検討し、浄化用のタンクの増設と浄化フィルターの設置が最も費用の掛からない方法という事に結論付けられました。フィルターについてはこの地域で平均的に使用されるものを使い、さらにヒ素の除去を専門とするフィルターの設置という二重の浄化装置としました。ヒ素専用のフィルターについては領事館の協力により、バイオテックという会社が無償で供給してくれることとなり、さらにこれから先も水質検査とフィルターの管理・交換を継続して頂けるとの事で、長期にわたり綺麗で安全な水を供給できることとなりました。

このカンボジア事業を始めたころに比べ、円安の関係で予算額も1.5倍程度上昇し費用的に厳しい中、協力してくれる業者が増えたことや今回参加していただいた沼津北RC土屋会長からの個人的な支援金30万円や服部会長エレクからの3万円の支援金など頂いたこととても感謝致します。

また、式典や夜に行われた懇親会には、カンボジア政府の関係者やフィルターを提供していただいたバイオテックの関係者、プンペンRC会長のDr.Swartzなど多数参加いただきコミュニケーションを深めることも出来ました。

このように国際奉仕事業が継続されることにより、奉仕の輪がだんだん大きくなってきていることを実感させられる今回の奉仕活動でした。そして、今回初めて参加いただいた野村諒子さん、原幹事、高村勝則さん、三輪暁生さん、高橋麻子さんが現地の様子を実感して頂き、国際奉仕活動への理解と興味をもっていただいたことにも感謝致します。

出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	28/39	71.79%	34/39	87.18%
今回	31/40	77.50%	会員総数	41名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

新井君、伊丹君、岡君、加藤(貴)君、杉橋君、土屋君、中山君、矢岸君、渡邊君

(*出席免除会員の欠席者 片野君)



おめでとう

会員誕生日

2月1日 藤川智徳君



幹事報告

幹事 原兄多君

1. 来週は2月第一例会です。例会終了後に理事・役員会を開催しますので、議案のある委員会は準備願います。
2. 1月5日に開催されたサッカー大会のアルバムを三島RCの山岡さんが作成してくれましたのでご一読ください。

※紙面の都合でスマイルは次号に掲載します。

野村 諒子君

初めてのカンボジア国際奉仕事業へ参加させていただきました。カンボジアという国にも初めて訪問し、発展途上の国に様子をすることが出来ました。

これまで多くの若者が日本に技能実習生という形で、働きに来ています。静岡県東部で働く若者が多くいます。現地に行ってみると乾季には畑で収穫するものはなく、家計を助ける為に働きに出るしかないという状況が理解できました。プノンペン、首都だけあって、街にビルも多く働く場も多くありそうですが、シェムリアップの近郊では、農業以外は観光が産業になっていますが、男性の働く場は少なそうでした。

今回訪問した、カンダール州の小学校では学校施設も立派で子どもたちへの指導もしっかりされている様子でしたが、井戸を掘るとヒ素が出て、安心して飲める水が少ないということは衝撃でした。今回の水道工事でヒ素の除去装置が付けられたことは良かったと思います。今後も、安心して安全な水が提供されるように、この事業の必要性を強く感じました。継続していくことを望みます。

気候風土・・・乾季ということもあったので暑さはしのげたが、光化学スモックがひどく青空や太陽が見えない空になっていた。街中は、マスクが必要で、道路際の店の商品は排ガスと土埃で汚れている様子。

人々の様子・・・学校の子もたちや父兄の皆さんは、明るい笑顔で挨拶してくれて、歓迎していただけていることを嬉しく思いました。貧富の差があり、国の最低限の生活保障制度がないのか、靴のない子どもや、信号待ち車に物を乞う人が近づく姿もたびたび見られ、まだまだ、生活の厳しい人たちがいる実態がわかりました。

交通事情・・・新空港もできているようですが、日本から直通では行けないところが交流するには難しい面もあると感じます。公共交通機関の状況はわかりませんでしたが、排ガスの多い車と、バイクでの通勤が多く、光化学スモックの原因にもなっていると感じました。

観光・産業・・・ポルポトの残虐な政権から50年が経ち、国として近隣国と同じように経済発展を目指している活気が見られました。若い世代の多い国なので、日本や中国からの工場建設も進むのではないかと思います。これからますます発展に向けて勢いが出てくるのではないかと感じます。観光国としても魅力的な国だと思いました。

藤川 智徳君

今回で自分はカンボジア3回目の訪問となりました。訪問回数に比例して街中のビルディングそして車(高級車含む)の台数が年々増えているように感じました。毎年夕食時に訪れる「タイタニック」というお店から見る向こう岸の夜景が昨年よりとても華やかだったことは印象に深く残っております。井戸水・贈呈式式典においても子供たちや親御さんたちが本当に喜んでくれているのが伝わってきて、こちらとしても嬉しい限りです。一本の井戸がどれだけの人々の健康や命を守るかを想像すれば、この事業の意味とその尊さは計り知れません。

今回もこの活動に参加させていただき有難うございました。皆さんどうもお疲れさまでした。

原 兄多君

初めて参加させていただき、やはり実際に行ってみないと分からないことが多いと感じました。

今年度は幹事を務めさせていただいてますが、どうしても予算とか会員の負担とかを考えてしまい、特に予算面から事業の縮小を考えがちでした。

しかしながら、カンボジア支援については、まだまだ支援の継続が必要だと個人的には思いました。

参加したことが無い方は、是非一度参加して本事業の意義について考えていただければと思います。

三輪 暁生君

初めて、国際奉仕事業に参加させて頂きました。

現地では、到着が遅れたにも関わらず、子供達が手を合わせてお出迎えをしてくれていて、その表情からは本当に心から感謝しているんだと伝わりました。子供達の屈託の無い笑顔に触れ、現地でしか味わえない感動を頂戴しました。

また、裸足の生徒がいたり、サドルの無い大人用の自転車に子供が乗っていたり、電柱が今にも倒れそうな竹だったり、教室が薄暗かったりと、まだまだ支援が必要なのだと感じました。そんな厳しい環境下でも明るく元気な子ども達を見て感慨深いものがあり、この事業の大切さを改めて感じました。

ちなみに、リエンボン村の小学校ではちょうど授業が始まり、初めて授業参観をする事が出来ました。

今回はあまり、子供達と触れ合う時間がありませんでしたが、昨今、日本への外国人技能実習生が増えているなか、少しでも日本の事を知ってもらうため、カンボジアの子供達に対して日本企業の職業講話などの授業も行えたら面白いかなあと思いました。

この研修で覚えたクメール語

1・・・ムオイ 2・・・ピー 3・・・バイ

仲原会長、大村委員長をはじめ設営してくださった方々ありがとうございました。

吉村 真人君

今回2度目の参加となります。

初めて参加した時の子供たちの笑顔と変わらない笑顔は2度目も変わりませんでした。何もわからずに初めて訪れた時の衝撃をさらに上回るように感じました。現地に行かなければわからない感動です。我々に手を合わせてくれる(それもかなり高い位置)子供や地域の方、子供は先生から我々をどのような人物だと教えられているのだろうか?それにしても日本では得られない優越感である。我々の事業がこの地域の人々にどれだけの幸福をもたらしているか、ということであろう。

今まではお金を払って誰かが井戸を掘ってくれている。ただそれだけのことでしたが、現地でこの光景を見ることで事業の内容や大切さを痛感することができる。まだ行かれていない方はぜひ訪れてください。

初参加の方は往路、ホーチミン経由復路、ハノイ経由またカンボジアもプノンペンとシェムリアップと研修先も充実していて良かったと思います。忙しく自由な時間はありませんでしたが、貴重なお時間でした。

仕事からカンボジアの渡航はそれほど多くはないが観光会社のエスコートでは行くことのない地域の視察がせせらぎ三島の活動を通じて体験できるので、事業の理解、認識のために必ずや訪問して下さい。土屋会長が参加して下さいように他クラブの方々もせせらぎの事業に関心を持って下さっています。先駆者としてもっともっと事業を拡大してカンボジアからもっと笑顔が増えることを願います。